

ゼミ合宿報告

報告：河内美江

日：1999年 9月 7日（火）～8日（水）

場所：国立婦人教育会館（嵐山）

スケジュール：

（1日目）

- 10：30～12：00 三浦麻矢 修士論文調査結果の中間報告と章立ての検討
報告内容…徳島と横浜の世話人の結果
横浜の親たちの考えの結果
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～14：30 小林由美 博士論文の中間報告と検討
報告内容…修士論文での産む側への調査
開業助産婦への聞き書きと助産録集計
テキストにみる出産、産婆・助産婦、産む側
出産の概念化
助産婦の出産に対する考え方
- 14：45～16：30 森政淳子 博士論文の中間報告と検討
報告内容…食を中心軸にして、中年層を対象に
家族の関係をみていく
山形県櫛引町と鹿児島県の比較
- 16：30～17：05 田代美江子 戦後改革期における性教育について
報告内容…研究の目的と意義
論文構成と課題
- 17：30～19：00 夕食
- 19：00～19：30 紀要第3号編集会議 締め切り日時と分担等について
- 19：30～21：30 橋本紀子教授 北欧ジェンダー研修ツアーについて
報告内容…スウェーデン（Berga 老人センター、性教育協会、国立女性リソースセンター、国有鉄道）・オランダ（障害者評議会、選択的人間関係財団）・フィンランド（老人サービスホーム、左翼連合、男女平等オンブズマン）等
- 21：30～ 入浴&交流会

（2日目）

- 9：15～10：40 藤野彰子 博士論文の一部報告と検討（紀要）
報告内容…終末期がん看護に携わる看護婦の有効なタッチの実践
10人の看護婦の聞き書き調査結果
- 10：45～12：00 松井幾子 博士論文の現地調査実施計画報告と検討
報告内容…調査目的、調査方法、対象者、対象地域、期間
英文の質問紙
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～14：30 河内美江 尿失禁と妊娠・出産の先行研究について（紀要）
報告内容…目的、妊娠・出産の影響、考察

今回のゼミ合宿は、博士論文2名と修士論文1名がまとめの時期に入っていたため、論文のストーリーについてや各章をどのように構造化していくかについてディスカッションが行われた。後に続く者も本腰を入れた調査が控えていたため、自分たちの論文の展開方法も視野に入れながらの参加であった。

また、橋本先生からは、北欧ジェンダー研修ツアーの報告が資料や写真を交えながらあ

り、多くの驚きと情報提供があった。中でも、オランダの「代替的関係づくりのための協会」(SAR)における活動については、考えさせられるものとなった。健康者が性行動の権利があるように、障害者のそれを基本的人権として認め、公費で性行為を援助している。そして、その相手となるヘルパーは、既婚者の場合、パートナーの承諾を得て登録している。どこまでが権利でその権利を保障するためには倫理的配慮は必要なくなるのであろうか？日本においては考えられない状況に驚きが隠せなかった。

日：2000年 3月27日(月)～28日(火)

場所：国立婦人教育会館(嵐山)

スケジュール：

(1日目)

- 10:30～12:40 河内美江 修士論文本調査の質問紙検討
報告内容…対象者、調査枠組み、質問項目
- 13:40～14:40 藤野彰子 看護婦(士)のもちいる「タッチ」に関する研究
報告内容…終末期がん看護に携わる看護婦のタッチの実践に関する研究
性差のタッチへ及ぼす影響
- 14:40～15:30 松井幾子 マラウイ共和国のHIV/AIDS感染予防に関する研究
報告内容…章立てと今後の予定
- 15:45～16:50 水崎富美 近代日本の初等教育における学校訓練と『教育内容』のジェンダー化
報告内容…問題関心と構成
- 17:10～18:00 河内美江 談話室へ移動し、続きである河内の質問紙の検討
- 18:00～19:00 柳井郁子 戦後日本における企業社会化と家族の変容
報告内容…問題関心と課題設定
先行研究
戦後日本における企業の家族管理
- 19:00～20:30 夕食&入浴
- 20:30～ 和室にて交流会

(2日目)

- 9:00～10:00 田代美江子 京都調査報告と今後の研究計画
報告内容…純潔教育に関する史・資料の収集と聞き書き調査
- 10:00～10:40 森政淳子 博士論文発表と今後の課題
- 10:40～11:30 小林由美 博士論文発表と今後の課題
- 11:40～12:30 橋本紀子教授 ジェンダーフリー絵本第2巻
『生きるってすてき』紹介
今後の研究活動について

春合宿ゼミは、女子栄養大学大学院保健学の博士課程を修了した第1期生(祝)と、今回初参加となる水崎富美氏、柳井郁子氏を交え、多くの参加者の中で行われた。自己紹介をしながらとなり、バラエティにとんだ発表内容のため、刺激のし合う中ですすめられた。博士論文作成に向けた2名は、論文構成に内容が集中し、修論作成中の1名は、質問紙項目の表現方法に多くのアドバイスをもらう状況であった。初参加となった2名は、多くのテーマが集まる教育学研究室の現状に目を白黒させていた。反対に、教育学研究室のメンバーは、新たな歴史学的な分野の発表に研究方法や論法の違いを肌で感じ、学び多い機会となった。

日：2000年 9月 5日（火）～8日（水）

場所：国立婦人教育会館（嵐山）

スケジュール：

（1日目）

- 10：00～12：00 藤野彰子 博士論文経過報告
報告内容…臨床経験の少ない看護婦のタッチに関する認識と実践
病棟でのタッチに関する実践研究
- 12：00～13：00 昼食
- 13：10～14：45 松井幾子 博士論文経過報告
報告内容…マラウイ人の性行動性観念に関する調査結果
- 14：45～16：30 河内美江 修士論文経過報告
報告内容…本調査結果と章立て
- 16：30～17：00 橋本紀子教授 集団就職をしたひと人たちへの聞き書き調査
- 17：00～19：00 夕食&入浴&買い物
- 19：40～21：00 水崎富美 博士論文経過報告
報告内容…教育の世紀社同人の教科外領域（生活指導）の理論と実践の研究
－近代日本の訓練をめぐる「共同性」の創出と人間形成－
- 21：00～22：00 渋谷美穂 修士課程終了後の継続的な研究計画
報告内容…専門学科高校生の自己肯定感形成とジェンダーとの関係
- 22：00～ 交流会

（2日目）

- 9：15～10：30 田代美江子 近代日本における性教育論の展開と男性形成
報告内容…課題、史料について
- 10：45～11：55 柳井郁子 博士論文経過報告
報告内容…高度経済成長期における企業社会化と家族の変容
分析視角の明確化、史料について
- 11：55～12：30 橋本紀子教授 集団就職をしたひとたちの続き

残暑厳しい中、夏のゼミ合宿が開催された。今回の合宿は、藤野さんが今年度より職業との両立のため1日目の夕刻に帰宅し、変わって、夕刻より2年前の修士課程修了者である渋谷美穂さんの出席があった。美穂さんの参加は、終了後の継続的な研究の必要性を再認識するに至った。また、残念ながら博士課程修了の森政さんと小林さんが事情により参加ができず、ディスカッションとその後の交流会はもの静かな雰囲気の中行われた（お二人の存在感の大きさに改めて気づく…）。

日：2001年 3月 28日（水）～29日（木）

場所：那須温泉（白雲荘）

スケジュール：

（1日目）

- 11：00～ 南が丘牧場散策と昼食
- 13：00 白雲荘到着（和室2部屋）
- 13：20～13：40 紀要4号の予定会議（掲載予定・作業分担・発行予定等）

- 13：40～14：20 河内美江
2001年の研究計画
尿失禁予防と改善に関する助産婦の認識
- 14：20～15：10 橋本紀子教授
研究経過および今年度研究計画報告
Birth Control Review にみられる 1920～30年代日本産児調節運動
戦後教育史の一断面等
- 15：10～15：40 休憩
- 15：40～16：20 小林由美
現状と今後の課題
- 16：20～16：45 森政淳子
特別講義ジェンダー統計について
「家族構成の変化と食生活－生活分離意識の世代間の差」
家政学会の原稿について
- 16：45～17：00 松井幾子
紀要4号の提出について
今後の研究計画（学会誌投稿・学会発表・その他）
- 17：05～17：55 田代美江子
2000年度報告および2001年度研究計画
近代日本における性教育と男性のセクシュアリティ形成
- 17：55～18：15 水崎富美
近代日本の訓練をめぐる共同体の創出と人間形成
－児童の村小学校の理論と実践－
- 18：15～20：30 夕食&入浴（温泉！！ソルト付き）
- 20：30～21：30 水崎富美
- 21：30～？？ 入浴&森政さん壮行会

（2日目）

- 9：20～9：40 橋本先生よりゼミ合宿の講評（お天気：小雨と霧）
- 10：00～ 再度南が丘牧場&手作りハム屋にてお買い物
- 11：00～ 3D恐竜館（お天気：すごい！！みぞれになってる…。）
- 12：30～ 昼食
- 13：30～ 解散

今回のゼミ合宿は、嵐山を離れ、自然豊かな那須温泉！！で開催された。幹事担当の松井さんの苦勞がみのり、とても満喫できる内容であった。残念ながら藤野さんと柳井さんが欠席であったが、良さんの初参加という機会にもなった。森政さんが徳島に旅立たれる壮行会ももちろん計画に織り込み、紀要4号の編集会議とそれぞれの研究者の1年間の研究計画の発表が主な内容であった。そればかりでなく、牧場散策、ピロシキを味わい、濃厚な牛乳を飲み、きれいな空気を吸い込み、今までになく（？）心うきうきした時間も過ごすことができた。また、その噂どおり、春真っ盛りの中、2日目にはみぞれが降り、誰もが「やっぱり…」と思う現実もあった。ほとんどが大学院の修了生となった時期の合宿であったが、この先も同じ研究者としてのお互いの存在を十分認識した2日間となり、それぞれの旅立ちでもあるように感じた。